

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税金は生活である』

町田市立町田第一中学校 3学年 青山 由

自宅から学校への通学途中の道路に、直径がバスケットボールくらい、アスファルトが削れてできた穴が空いている事に気付いたのは、まだ日傘も必要無いくらい心地よい陽気の5月中旬であったと思う。それほど大きくはない道路だが自転車などの交通は頻繁にあり、車も自転車もその穴を避けて通行しているのを私は通りがかりで数日間見かけていた。「雨が降ったら水たまりになるだろうし不便そうだな。」などと考えながら登下校していたが、程なくしてその穴が白い線で囲まれた。そしてそのさらに数日後の下校時、その穴が新しいアスファルトできれいに埋められているのを確認した。

「梅雨前に穴がなくなつてよかった。」と帰宅後母に報告すると「市の対応が早かったんだね。有難いね。」とコメントが返ってきた。

そうか。自治体があんな穴を把握して調査や協議をし、不便がないようにと工事してくれたということなのだ。

学校の授業で税に関して学習し、行政は市民や国民から納付された税金を使って政策を実施運営していることは理解していた。しかし私たち中学生は消費税こそ社会の仕組みとして支払ってはいるものの、税金の大部分は親や大人たちが納付しているという意識だ。

また行政もそれに携わる大人たちが自治体や国を動かしているという大枠で捉えているに過ぎなかったように思う。市民、国民の納めた税金がどのように運用され行政がなされているかと具体的に考えたことはこれまであまりなかったかもしれない。

今回の公道の穴は、それに気付いたとしても個人で修繕するということとはなかなかできることではない。行政が動いてくれなければそのまま破損している状態で、あるいは穴が広がって更に不便で危険なものになっていたかもしれない。行政が迅速に穴を埋めてくれたことで車は道路を真つすぐ進むし、私は雨の日の登下校でも水たまりの心配をしなくてよい。

そこで暮らす人全てが不便なく健康安全に日常を過ごせるという「当たり前前」の生活。どこにでも、誰にでも保障されねばならない「当たり前前の生活」を維持するためには、それぞれの場所で日々起こる様々な課題やエラーを解決しなければならぬ。その問題解決には税金は必要なのだ。つまり税金は生活なのである。

最近では自治会が問題箇所をいち早く把握するためにラインやアプリを使って市民から簡単に情報を送ることができるシステムもあると市のホームページから知った。また以前は役所に出向いていた様々な申請なども家に居ながらにして手続きができることが増えたと父から聞いた。

私たちの当たり前前の生活を保つだけでなく、更に便利に、またその便利を当たり前にしていくのもまた税金なのだ。